

第65回大阪矯正管区教誨師研修大会評価委員会議事録

1 日時

平成29年12月6日(水) 午後4時21分から同時46分まで

2 場所

津村別院「北御堂」2階集会室

3 出席者

(1) 教誨師(6名)

会長 北島 顯諒

副会長 松浦 寛法

理事 麻生 弘道, 寶來 正彦, 石黒 悦雄, 木本 和行

(2) 事務局(2名)

河内教育統括, 安田教育主任

4 評価方法

当日出席者に対しアンケート用紙を配布し、63名分(教誨師49名, 職員13名, 不明1名)を回収, その回答を基に大会を検証した。

5 アンケート内容及び評価結果

(1) 第65回の研修テーマ(全国統一テーマ)「未来へ」について

大多数が適切であった旨を回答しており, 概ね好評であった。

- ① 53名(84.1%)が適切であった旨を回答している。
- ② 9名(14.3%)がどちらともいえない旨を回答している。
- ③ 1名(1.6%)が無回答

(2) 研修内容について

大多数が適切であった旨を回答しており, 概ね好評であった。

- ① 51人(80.9%)が適切である旨を回答している。
- ② 10名(15.9%)がどちらともいえないと回答している。
- ③ 1名(1.6%)が適切である, どちらともいえないの間を回答している。
- ④ 1名(1.6%)が無回答

(3) 研修成果について

大多数が研修成果を肯定的に捉えており、成果が認められた。

- ① 48名 (76.2%) が大いにあったと回答している。
- ② 11名 (17.4%) がどちらともいえないと回答している。
- ③ 1名 (1.6%) が適切である、どちらともいえないの間を回答している。
- ④ 1名 (1.6%) があまりなかったと回答している。
- ⑤ 2名 (3.2%) が無回答

(4) 実施体制について

ほぼ全ての者が適切である旨を回答している。

- ① 57名 (90.5%) が適切である旨を回答している。
- ② 4名 (6.3%) がどちらともいえないと回答している。
- ③ 2名 (3.2%) が無回答

(5) 研修会の課題・改善すべきと思われる点について

実施体制や今後研修で取り上げたい内容等について、様々な意見が上げられた。

- ・ 座席は指定して施設別にされてはどうでしょうか。
- ・ 前方の席が空席になりがちですので、座席指定をされることを検討ください。
- ・ キリスト教、仏教の信仰のみであり、神道の神なからの道での生かされる命をみつめる話もしてほしかった。
- ・ 日本人であるから日本人の生き方について知りたかった。
- ・ 教誨の根底は宗教であるが、私が学びたいのは“教誨の実際”“技術”である。その意味では本日の講座は宗教学に重点が置かれ過ぎていたように思う。宗教哲学に傾き過ぎていた。

(6) 研修会全体の意見及び感想等

- ・ シンポジウムは話が充実していて大変良かった。ただ、レベルが高いため自分のレベルを上げていく必要性を痛感した。
- ・ 研修成果は、これを受けて自分が何をするかで表れてくると思います。
- ・ 「人は出遇いによって輝く」とは尊いことばだと思います。当り前のように我が生を生きている私たちが、不思議の縁によって生を受け、自らの意志で何一つとして選ぶことの出来ない生命を生かされていることと思ひ気づかせていただくありがたい研修会でありました。
- ・ 今研修では宗教的人間観、罪悪感をよく学べた。矯正するとはどういうことかを考えさせられた。

6 研修の成果

テーマに沿った講師をシンポジストとして選定したことで、宗教学的な内容でありつつも具体的な体験談を通して「自らの意志で何一つとして選ぶことの出来ない生命を生かされていること」について、教誨師はもとより参加した施設職員も理解を一層深めることができた。

アンケート結果からも、参加者が宗教的根源の問題や自身の信仰する教えだけでなく、他宗の基本的な教義・教語の知識について学ぶ機会として刺激のある研修内容であったことが認められ、教誨師においては、今後被収容者との向き合い方について、施設職員においても、更生に向けた働きかけ、指導を行うときに参考となる言葉や取組み等について新たな発見にもつながった。

以上のことから、研修会として大きな成果が認められる。